

館山支部だより Vol.128

<支部連絡窓口>
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表)川村 巖
〒294-0032 館山市笠名1357
Tel. 0470-22-0230



<<梅雨季の花・セフィランサス>>
別名:レインリーリ
<拙宅の庭先から>

すでに6月を迎える時節ですが、令和7年度の支部総会を滞りなく終え 新年度を迎えたことを報告致します。
そもそも「年度」とは、日本の近代化の過程で紆余曲折を経て明治18年に制定された会計年度にならって現在の学校制度や社会の諸制度が定着したと言われ、年度の開始終了時期は国により違いがあるようです。 新年度は過年度の反省等をもとに新たな気持ちでスタートすることに意義があると考えます。
<支部長 川村 巖>

支部の活動概要

<<4・5月の活動実績>>

- 4. 23(水) 令和7年度県隊友会通常総会(千葉)
- 5.17(土) 峯岡山分屯基地開隊70周年記念行事協賛
(佐藤正久参議記念講演会聴講・鴨川)
令和7年度支部総会行事(夕日海岸昇鶴)
- 5.27(水) 落下傘部隊戦没者慰霊祭(安房神社)
- 5.31(土) 5月支部役員会(コミセン、別法)

<<6・7月の活動予定>>

- 6. 1(日) 旧海軍館山砲術学校
戦没者慰霊祭(佐野・館砲校跡)
- 7.20(木) 県隊友会後期支部長等会議
(千葉市民会館)
- 7.26(土) 7月支部役員会(コミセン)

令和7年度支部総会行事の点描 2025.5.17(土) 夕日海岸昇鶴

恒例の館空会・隊友会館山支部合同の総会等行事が、各会の総会終了後、参加者全員の記念撮影と合同懇親会が盛会裡に行われました。紙面の都合上主旨のみ紹介することにします。

館山支部総会

- 正会員18名が参加して行われ、提議された6年度事業・会計報告及び7年度事業計画は原案どおり可決承認されました。前年度事業の反省点とともに先般の「隊友紙配付に関するアンケート調査結果」によってもたらされることが予想される次の2点は、今後の支部活動を考え、進める上での大きな課題であると認識しております。
- ・会員の高齢化とともに新規入会者の激減に対応した支部活動(あり方)
- ・「隊友紙の欠落による隊友会ばなれ」の防止策等

<支部長>

館空会・隊友会館山支部合同懇親会

懇親会には3月に着任された角(かど)群司令はじめ各隊司令、システム通分遣隊長、群・各隊前任伍長等隊員の皆さんをお招きし、総勢50名からなる宴が催されました。
各卓を囲んだ参加者の和気藹々の談笑が続く中近況紹介の場では野田喜美男会員の機知に富む軽妙な司会進行により自己アピールや自慢話が飛び出すなど会場は大いに盛り上がりました。お互いの交流を確め、深め合い、さらには新たな出会いが芽生える 好個の場・機会であったと思います。

<川村 記>



両会の合同懇親会

<石井俊之館空会会員撮影・提供>

新入会員紹介

5月期 栗本俊平会員(海、館山システム通信分遣隊)

千葉県隊友会館山支部への入会を歓迎致します。

<会員一同>

隊友会本部定時総会における議決権の行使について

6月24日(火)開催の令和7年度隊友会本部定時総会における議決権の行使については、昨年度までのハガキの郵送による方法に代えて、原則として「電磁的方法(メール)」により代理人(千葉県隊友会会長)委任することになりました。

○行使要領については、「隊友千葉だより、5月号」に記載されております。

○提議される議案は、「隊友5月号」に掲載されております。

→隊友紙面またはWEB新聞(閲覧のためのパスワード等は下欄<注>参照)

※代理人(千葉県隊友会会長)に委任する場合は、

「議決権の代理行使書(遠隔者等用)」に所要事項を記入の上、6月5日(木)までに支部長宛メールで送付してください。

なお、議案についてご意見・異議等ある方は、同じくメール(止むを得ない場合は電話)でその旨連絡してください。

連絡先→<館山支部長 メールアドレス g_marine@f5.dion.ne.jp Tel.090-6497-6596 >

<注>Web新聞閲覧のためのパスワード等

隊友会本部HP:https://www.taiyukai.or.jp/membership/

ID: taiyukai パスワード: iwasaki3

戦時日誌に見る閉校ま近の館山砲術学校

日米開戦直前のS16年6月、横須賀砲術学校から陸戦・陸上対空砲術部門を分離して館山砲術学校(「館砲校」)が開校し、大戦中多くの陸戦、砲術、化兵要員を育成し部隊・戦地に送り出した。S20年に入り学校閉鎖の話が出始めたと言われる。折しも陸軍主導の本土決戦準備に呼応して、硫黄島、沖縄、八丈島等の島嶼防備の強化に拍車がかかけられていた状況下、海軍唯一の陸戦・対空要員養成機関である館山砲術学校が、なぜ閉鎖されなければならなかったのか、素人的には理解できない点があるが海軍の中核部門としてはそれなりの考えがあったのであろう。

話は別であるが、これまで館山の地にあった館山航空隊、洲ノ崎航空隊及び館山砲術学校の三つの海軍部隊の戦時日誌は一片も残されていないと思われていたが、館砲校の戦時日誌の一部を見出すことができたことは戦争末期、ことに閉校ま近の館砲校の状況を知る上で極めて貴重な収獲であった。

残されている戦時日誌は、一部欠落箇所はあるがS20. 3からS20. 6までの分で、(戦時日誌は作製部隊によってかなりの記述の精粗が見られるが)館砲校の場合はかなり細かく丁寧に書かれている。これから閉校に至るまで館砲校の様子を垣間見ることになる。

戦争末期、閉校ま近かの館砲校の課程教育等の変遷

○戦時日誌(4. 1~4. 24) 表紙は「館山砲術学校」と記され、在校人数も概数で教官等3、500名、学生・練習員6、000名、計9、500余名が在籍していた。 特筆すべきは、4. 24付で残った教育中の高等科、普通科の陸戦、対空課程練習生がすべて「繰上げ卒業」になって部隊等に赴任していることである。館砲校における下士官・練習員クラスの課程教育はこれをもって打ち切られることになったのである。

○戦時日誌(4. 25~6. 30) 表紙は「横須賀砲術学校館山分校」となっており、4. 25日付でもって横須賀砲術学校の分校になったことが分かる。在校人数も4月の三分の一程度に減らされ、課程教育は士官候補生及び予備学生・予備生徒に絞られ、各種の講習や実験が頻繁に行われるようになった。化兵術、陸戦術講習や築城施設講習などが行われ、講習の参加者はすべて准士官以上であった。さらに、本来学校には許可されていなかった兵器類の実用試験が館砲校に課せられた。

例えば硫黄島戦で初めて使われたと言われる噴進砲(ロケット砲?)の坑道内からの発射実験など。

○7月分の日誌は残されていないが、 在校中の予備学生・生徒は7月上旬には課程教育を切り上げて 全員が部隊・戦地に赴任したことであろう。 終戦1か月前の7月15日付でもって4年余に及んだ館砲校の歴史を閉じることになった。

<自称館山地域史探索マニア その50>



<館砲校 12cm高角砲台>

対空班課程予備学生の訓練風景

真継不二夫海軍特別報道班員が
S19年に予備学生を取材した時のもの
(戦後発刊された写真集より)